

とやま

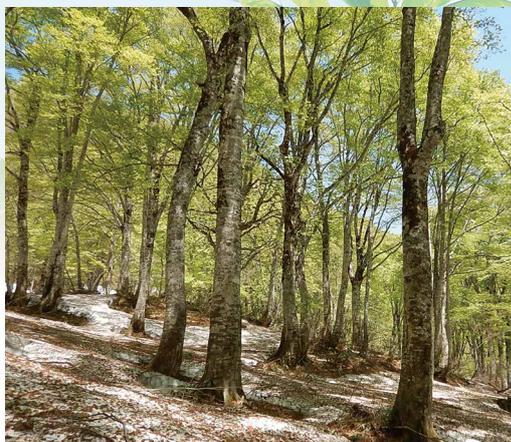
森林研究所

だより

富山県の民有林の主要樹種



スギ



ブナ



コナラ



ミズナラ

- ◆巻頭言 富山県の森林がもつ底力をひきだすために
研究の推進目標と平成29年度の主要研究課題について
- ◆研究情報 民有林の樹種別資源量の推定—ナラ枯れや成長による変動—
- ◆お知らせ 平成29年度森林研究所試験研究成果発表会の開催
平成29年度夏休み子供科学研究室の開催
受賞
人事異動

No.17

巻頭言

富山県の森林がもつ底力をひきだすために

所長 相浦 英春

森林研究所では広く県民や林業関係団体等の要望を踏まえ、新たに策定される『富山県農林水産試験研究推進プラン（平成29～33年度）』に掲げることとしている3つの推進目標の実現に向け、今年度の試験研究課題に取り組んでまいります。

主な取り組みとして、まず、『水と緑を育み県民生活の安全・安心に貢献する森づくりの推進』では、引き続き、県内の森林の動態や環境をモニタリングすることによって、熊の出没予測や森林の持つ機能を明らかにしてまいります。また、放置竹林における効率的な竹駆除技術や、スギ穿孔性害虫による被害の積極的な回避・予防方法を開発することによって、県内の里山を健全にするとともに、安心して活用できるようにすることを目指します。

『森林資源の循環利用を推進する技術の開発』では、引き続き優良無粉スギ「立山 森の輝き」の育苗体系の確立を目指し、あわせてその増産を進めるとともに、多雪地帯に適応した省力的な植栽および保育技術を開発し、人工林の循環利用を推進する技術開発を目指します。さらに、コナラの実生更新技術の開発や、コナラ植栽木の適切な更新・育林技術の開発を進めることによって、里山二次林についても循環利用を推進する技術開発を目指します。

『地域特性を活かした特用林産物の生産技術の開発』では、県内産の機能性キノコであるカワラタケや冬虫夏草の栽培技術を開発するとともに、他研究機関との連携も視野に入れて、薬都・富山にふさわしい活用の実現を目指します。

当研究所は、本県の森林・林業の発展や山村地域の振興のための試験研究課題に積極的に取り組んでまいりますので、今後とも、ご理解とご協力をお願いします。

研究の推進目標と平成29年度の主要研究課題について

(1) 水と緑を育み県民生活の安全・安心に貢献する森づくりの推進

- 放置竹林における効率的な竹駆除技術の開発
- スギ穿孔性害虫の生態的特性を利用した被害の回避・予防方法の開発

(2) 森林資源の循環利用を推進する技術の開発

- 農業用資機材を使用したスギ実生苗木生産の省力化技術の開発
- 多雪地帯に適応した省力的な植栽および保育技術の開発
- コナラの実生更新技術の開発

(3) 地域特性を活かした特用林産物の生産技術の開発

- 県内産材料を用いた機能性キノコ冬虫夏草の栽培技術の開発
- 県内中山間地域における樹液の活用研究

研究情報

民有林の樹種別資源量の推定—ナラ枯れや成長による変動—

研究の概要

国や県といった広域レベルにおいて、どのように森林を利用し、管理していくか検討する際には、樹種別にどのくらいの資源量があり、成長や枯死によりどの程度増減しているか把握しておく必要があります。林野庁は全国の4km間隔の格子点上に約15,000点の調査区を設けて森林資源モニタリング調査を実施しており、本県民有林内には113調査区（図-1）があります。本県では2005～2011年にかけてナラ枯れ被害が多発したため、ナラ枯れ発生前の1999～2003年の調査データと、ナラ枯れ終息後の2012～2015年の再調査データを用いて、樹種別資源量の変動を解析しました。

れる程度のものであったと言えます。一方、ミズナラは56%、アカマツは32%減少し、ナラ枯れとマツ枯れの影響と考えられました。

ナラ枯れ終息後の推定材積は、人工林2441万m³、天然林2111万m³でした。スギが全体の48%を占め、次いでブナ、コナラ、ミズナラが多く、この3種で16%を占めました（図-3）。ホオノキ、トチノキ、イタヤカエデも材積の多い樹種でした。ミズナラはナラ枯れ発生前は天然林で最も材積の多い樹種でしたが、ナラ枯れ終息後はブナ、コナラ以下となりました。

研究の成果

ナラ枯れ発生前の推定材積は、人工林1901万m³、天然林1967万m³で、上位4種は人工林に多いスギと、天然林に多いミズナラ、ブナ、コナラでした（図-2）。ナラ枯れ発生前から終息後にかけて、スギ、ブナ、コナラの材積は13～31%増加しました。コナラは増加したため、ナラ枯れ被害による減少分は生残木の成長で補わ

成果の活用

民有林の資源量に関する情報は森林簿からも得られますが、森林簿には成長や枯死による実際の増減量をモニタリングしてデータに反映させる機能がありません。また、広葉樹天然林についてはブナとその他の樹種区分しかありません。本研究で得ることができた森林簿で不足していた情報は、森林簿の検証や森林計画の策定に活用できます。また、森林と密接に関わるクマ等の野生動物管理にも利用できます。



図-1 調査区の位置

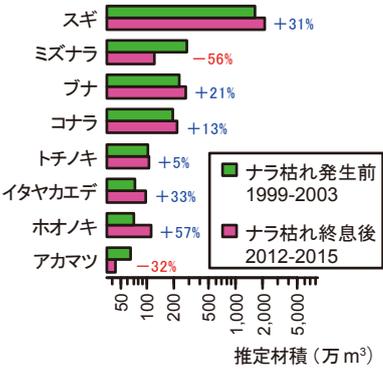


図-2 ナラ枯れ発生前から終息後の材積変動

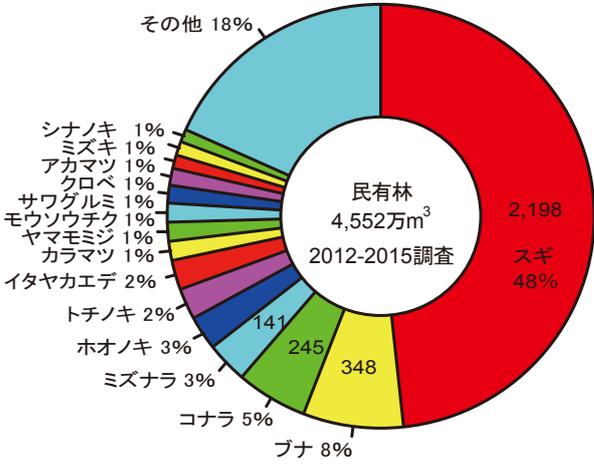


図-3 ナラ枯れ終息後の樹種別材積

<<問い合わせ 森林環境課 中島春樹>>

お知らせ

◆平成29年度森林研究所試験研究成果発表会の開催

《と き》7月7日（金）午後2時から4時30分まで

《と ころ》富山県教育文化会館 集会室 富山市舟橋北町 7-1

《課 題》

- 「民有林の樹種別資源量の推定－ナラ枯れや成長による変動－」…………… 中島 春樹
- 「スギ人工林におけるバイオマス発電所向け燃材の発生量と収益性の評価」…………… 関子光太郎
- 「多雪山地の森林がもつ水源かん養機能」…………… 相浦 英春

◆平成29年度夏休み子供科学教室の開催

《内 容》「虫たちの世界をのぞいてみよう－森林における昆虫の役割－」

森にはさまざまな種類の昆虫がくらしています。昆虫の中には、植物をえさにするものや、他の生き物をとらえて食べるもののほか、枯れた木や落ち葉を分解して「そうじや」の仕事をすものもいます。カブトムシなどのくらしをとおして、森のしくみを学びませんか。

《と き》7月28日（金）午後1時から4時まで

《と ころ》森林研究所構内および林業普及センター研修室（立山町吉峰）

《対 象・人 数》小学4～6年生 10名（先着順、保護者同伴可）

《申し込み方法》電話、FAX または E-mail (matsuura@fes.pref.toyama.jp)

《申 込 先》森林研究所 担当：松浦 崇遠（まつうら たかとう）

《締め切り》7月21日（金）

受賞

公益社団法人大日本山林会が主催する第7回林業経営「創意工夫」表彰行事において、小林裕之副主幹研究員が優秀賞を受賞しました（写真）。対象となった課題は、「森林境界明確化支援システムの開発」です。ぜひご活用ください。



人事異動

平成29年4月1日付人事異動は次のとおりです。

氏 名	新	旧
相浦 英春	森林研究所 所長（昇任）	森林研究所 副所長
牧野 吉成	森林研究所 副所長（転入）	高岡農林振興センター森林整備課長

とやま森林研究所だより No.17 (平成29年6月15日)

編集・発行 富山県農林水産総合技術センター 森林研究所

〒930-1362 富山県中新川郡立山町吉峰3

電話 (076)483-1511 FAX (076)483-1512

<http://www.fes.pref.toyama.jp/>